

2022.8津久井幼稚園卒業生 ギャンビル ウィリアム海音くん高校1年 全日本ライフル射撃競技選手権 優勝 高校総体（インターハイ）全国3位

三浦版

掲載号：2022年6月24日号



菊名在住ギャンビルさん

トップの座を射抜け

ビームライフルで全国へ

[スポーツ]

菊名在住のギャンビル・ウイリアム海音さん（星槎高校1年）が6月11日・12日の両日、伊勢原射撃場で行われた高校総体（インターハイ）県予選会に出場し、ビームライフル・エアライフルともに男子の部で優勝した。7月28日（木）から広島県で開催される全国の舞台への切符を手にした。



久里浜射撃場で練習するギャンビルさん

10m先にある的を目掛け、電子ビームを1シリーズ10発照射し、45分間で60発の合計点数を競うビームライフル。県予選には71人が参加し、大会新となる627・2点で栄冠を掴んだ。

また、空気圧で鉛球を放つエアライフルには、2人がエントリー。1年生ながら2位と35・7点の大差をつけ、ダブル優勝を果たした。

ただ、全国には1種目でしか出場できないため、好調のビームライフルを選択するという。

「射撃界のホープ」

物心ついた頃から銃への憧れを抱き、小学校3年生から、くりはま花の国にある射撃場を拠点に競技をスタート。特訓の成果が実り、全国大会小学生の部で優勝した。

中学入学後、県体育協会などから推薦を受け、18歳以下でも競技用エアライフルを使用できる「年少射撃資格認定証」を県内で初取得。五輪代表や国際大会選手など育成ナショナルチームの選考会を兼ねた中学生の大会でも頂点に立ち、「射撃界の若きホープ」の名をほしいままにした。

「1人じゃない」

横浜市旭区にある高校に通いながら、母の千夏さんが車で送り迎えをし、平日は久里浜射撃場、休日は伊勢原射撃場で鍛錬を積む。米海軍に所属する父のポールさんの影響もあり、「将来は米軍に入りたい」という夢に近づくため、1発1発に集中する。同校ライフル射撃部で顧問を務める園田太さんは「今まで支えてくれた人たちに感謝して大舞台に挑戦してほしい。そして思う存分大会の空気を味わってほしい」と背中を押す。

大舞台を前にギャンビルさんは「勝ち負けは自分1人で消化してきた。でも今は1人じゃない。一緒に喜び悲しんでくれる良き理解者がいる。皆のために、楽しみながら高校ナンバーワンの座につきたい」と意気込む。

三浦版

掲載号：2022年8月5日号



自己ベストで全日本制覇

ライフル射撃・ギャンビルさん

[スポーツ]

全日本ライフル射撃競技選手権が7月17日、宮城県で行われ、菊名在住のギャンビル・ウイリアム海音さん（星槎高校1年）がビームライフル立射60発で優勝に輝いた。

10m先にある的に1シリーズ10発ずつ電子ビームを放ち、45分間で60発の合計点数を競うビームライフル。大会には高校生以下58人が参加し、628・3点で予選を1位通過した。上位8人で行われたファイナルは24発照射するルール。自己ベストを更新する251・6点で栄冠を掴んだ。

6月30日から7月11日まで、射撃競技が盛んなチエコを訪れ、大会時に着用する専用コートを新調。ギャンビルさんは「現地のパラ射撃選手たちに自分のフォームなど指導を受けたことも活かされた」と振り返る。

しかし、7月29日に広島県で行われた高校総体（インターハイ）では、暑さに苦しんだ末、3位という不本意な結果に。「どんな環境にも適用できる体を作り、10月に栃木県で開かれる国体に向けて調整を図っていきたい」と意気込んだ。

